

令和5年度

# 全国学力・学習状況調査

結果概要

交野市教育委員会



おりひめちゃん

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日

令和5年4月18日(火)

(3) 調査内容

- ①児童生徒：教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校）〕、質問紙調査
- ②学校：質問紙調査

(4) 調査を実施した児童生徒数（公立）

小学校第6学年 964,350人  
(交野市：9校 596人)

中学校第3学年 893,528人  
(交野市：4校 606人)

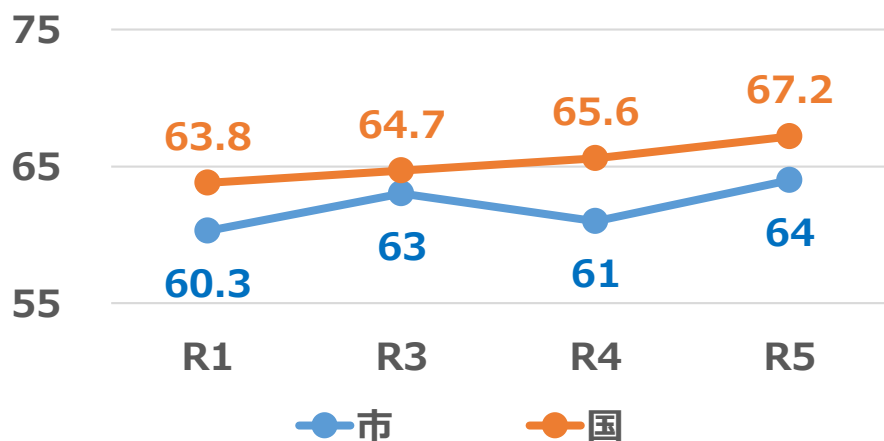
調査結果概況

			平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
小学校	国語	<b>交野市</b>	<b>9.0 / 14</b>	<b>64</b>	<b>10.0</b>	<b>2.9</b>
		大阪府（公立）	9.2 / 14	66	10.0	3.0
		全国（公立）	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9
	算数	<b>交野市</b>	<b>9.7 / 16</b>	<b>60</b>	<b>10.0</b>	<b>3.6</b>
		大阪府（公立）	9.9 / 16	62	10.0	3.8
		全国（公立）	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8
中学校	国語	<b>交野市</b>	<b>10.4 / 15</b>	<b>70</b>	<b>11.0</b>	<b>3.4</b>
		大阪府（公立）	10.2 / 15	68	11.0	3.6
		全国（公立）	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4
	数学	<b>交野市</b>	<b>7.6 / 15</b>	<b>51</b>	<b>7.0</b>	<b>3.8</b>
		大阪府（公立）	7.5 / 15	50	7.0	4.0
		全国（公立）	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9
	英語	<b>交野市</b>	<b>7.9 / 17</b>	<b>47</b>	<b>7.0</b>	<b>4.2</b>
		大阪府（公立）	7.7 / 17	45	7.0	4.3
		全国（公立）	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

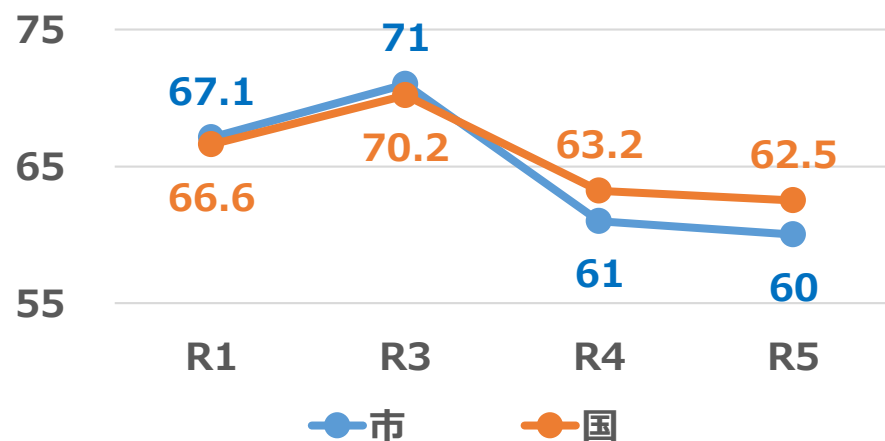
平均正答率 (%) の推移

小学校	令和元年度		令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	交野市	全国		交野市	全国	交野市	全国	交野市	全国
国語	60.3	63.8	実施されず	63	64.7	61	65.6	64	67.2
算数	67.1	66.6		71	70.2	61	63.2	60	62.5
理科	—	—		—	—	58	63.3	—	—

国語の推移



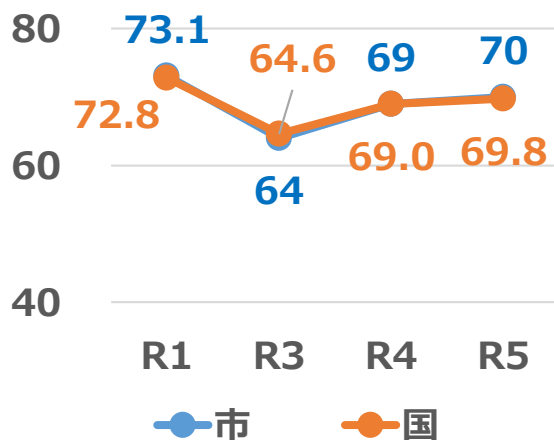
算数の推移



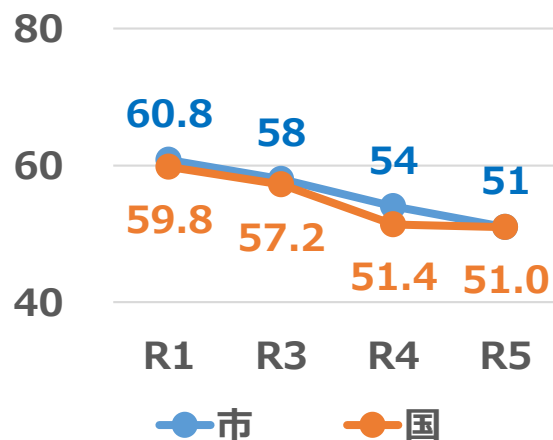
平均正答率 (%) の推移

中学校	令和元年度		令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	交野市	全国		交野市	全国	交野市	全国	交野市	全国
国語	73.1	72.8	実施されず	64	64.6	69	69.0	70	69.8
数学	60.8	59.8		58	57.2	54	51.4	51	51.0
理科	—	—		—	—	48	49.3	—	—
英語	58.0	56.0		—	—	—	—	47	45.6

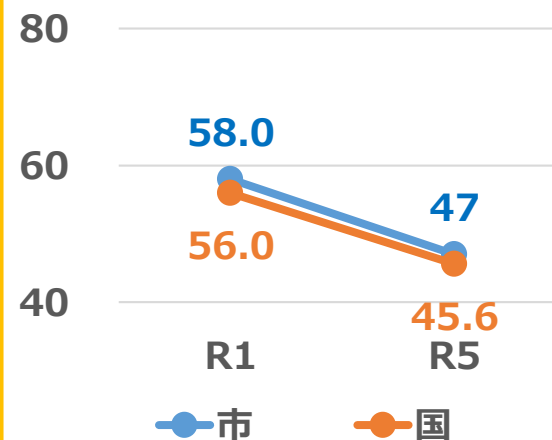
国語の推移



数学の推移



英語の推移

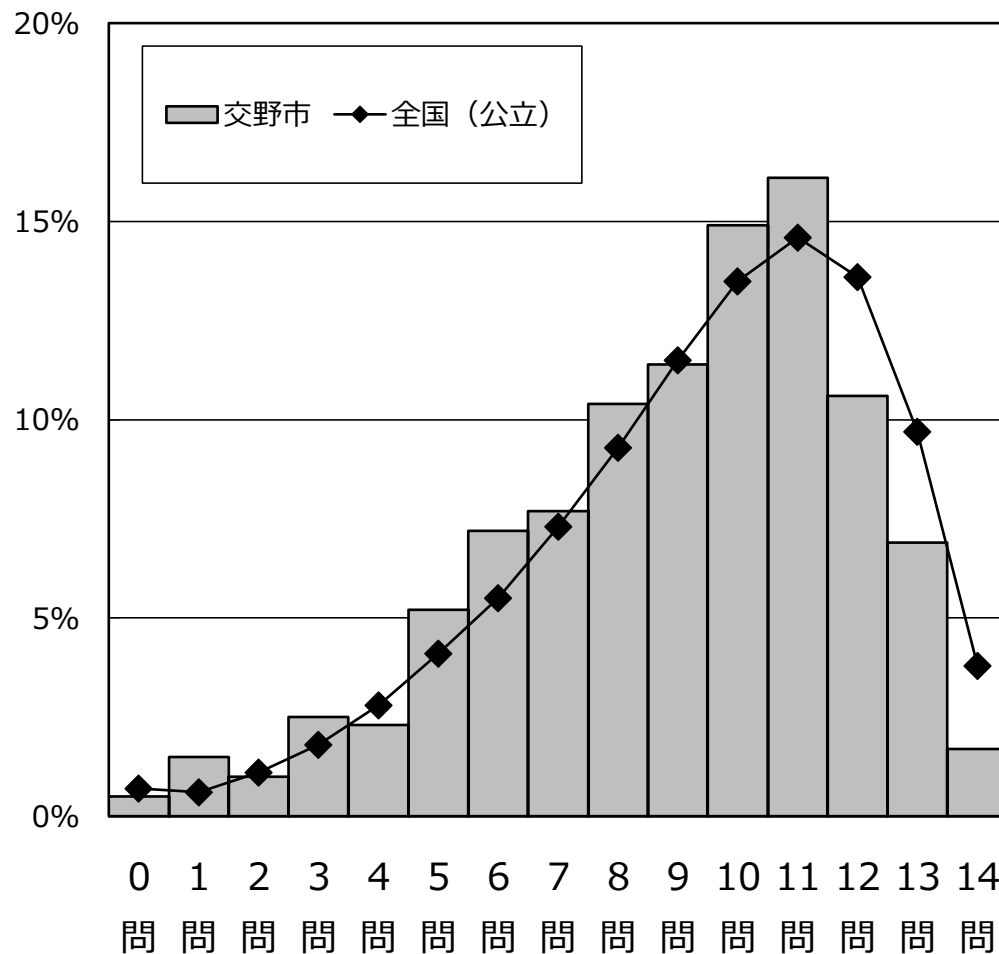


小学校・国語

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			交野市	全国	
全体		14	64	67.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	68.7	71.2
		(2) 情報の扱い方に関 する事項	2	62.4	63.4
		(3) 我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.5	72.6
		B 書くこと	1	20.5	26.7
		C 読むこと	3	69.3	71.2
評価の観点	知識・技能	7	66.9	68.9	
	思考・判断・表現	7	61.1	65.5	
	主体的に学習に取り組 む態度	0	-	-	
問題形式	選択式	9	71.1	73.6	
	短答式	2	59.7	62.7	
	記述式	3	45.6	51.1	

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)

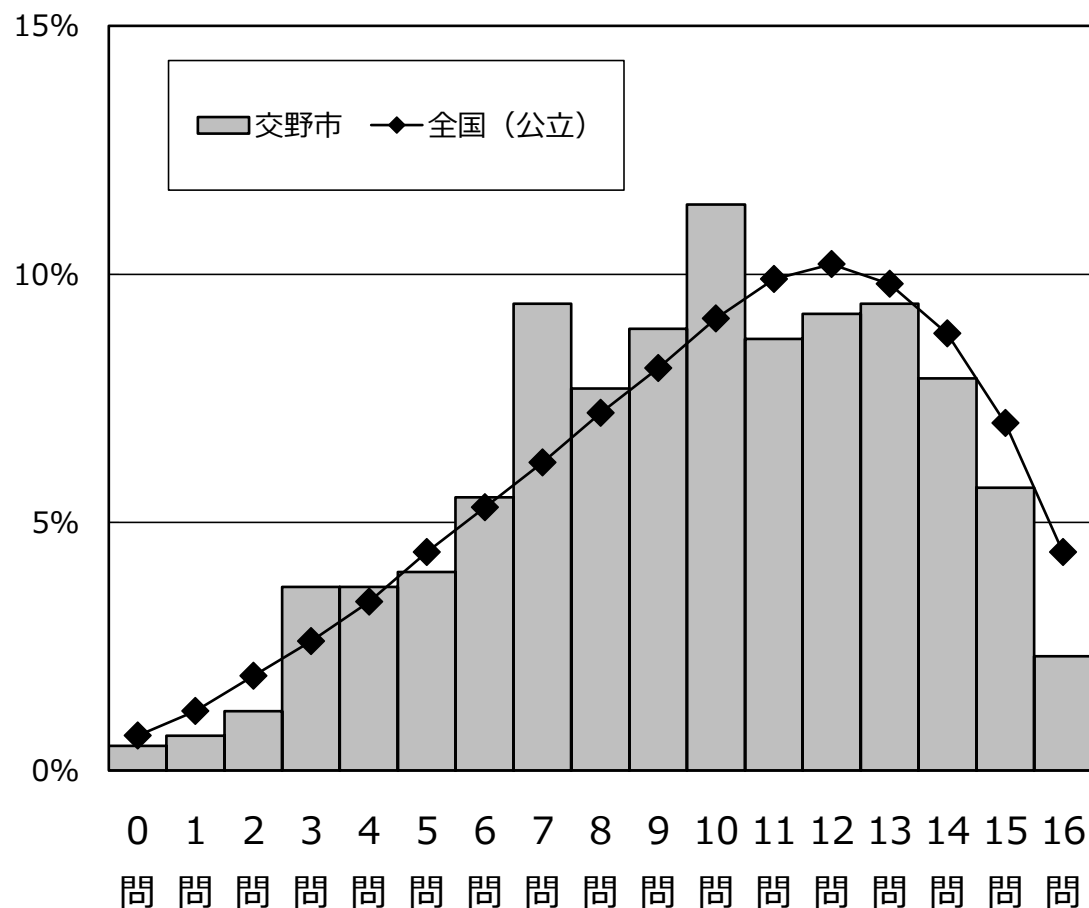


## 小学校・算数

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			交野市	全国
全体		16	60	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	66.0	67.3
	B 図形	4	46.3	48.2
	C 測定	0	-	-
	C 変化と関係	4	69.3	70.9
	D データの活用	3	61.4	65.5
評価の観点	知識・技能	9	65.6	67.2
	思考・判断・表現	7	53.6	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-
問題形式	選択式	5	54.9	57.7
	短答式	7	74.5	74.7
	記述式	4	42.6	47.3

## 正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



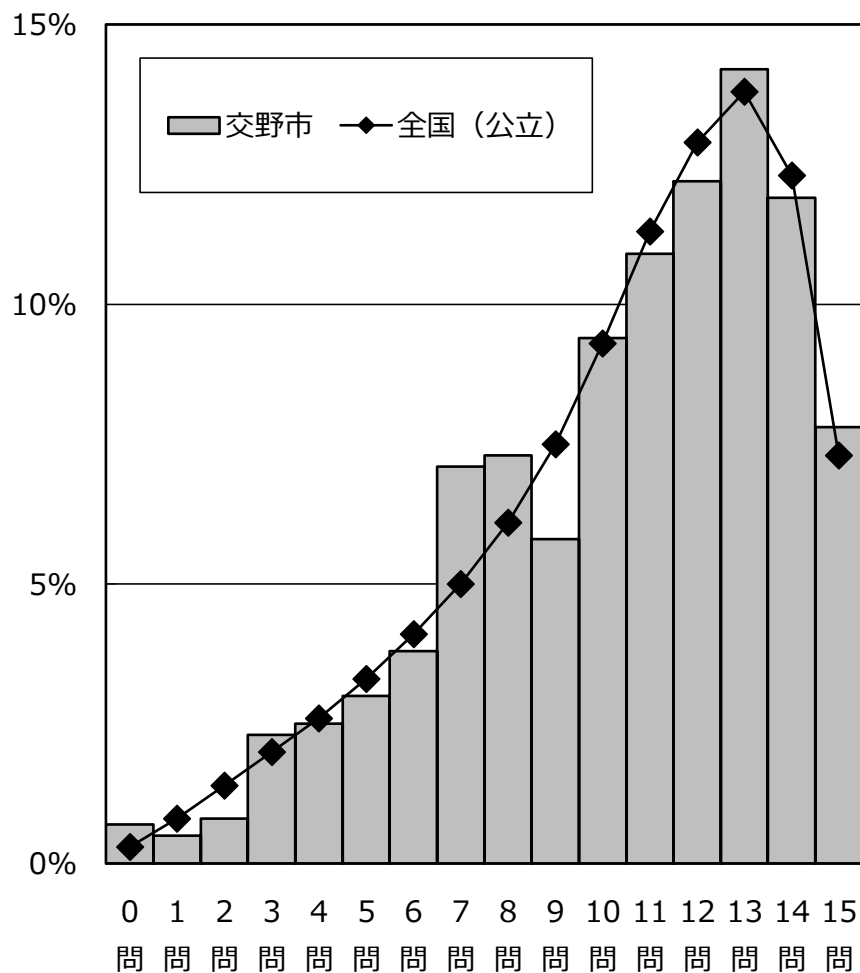
※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

中学校・国語

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			交野市	全国	
全体		15	<b>70</b>	69.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<b>70.1</b>	67.5	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	<b>62.0</b>	63.4	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	<b>75.4</b>	74.7	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	<b>82.7</b>	82.2
		B 書くこと	2	<b>64.5</b>	63.2
		C 読むこと	4	<b>61.8</b>	63.7
評価の観点	知識・技能	7	<b>70.1</b>	69.4	
	思考・判断・表現	9	<b>69.4</b>	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-	
問題形式	選択式	7	<b>71.4</b>	73.1	
	短答式	4	<b>66.9</b>	65.6	
	記述式	4	<b>69.2</b>	68.0	

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

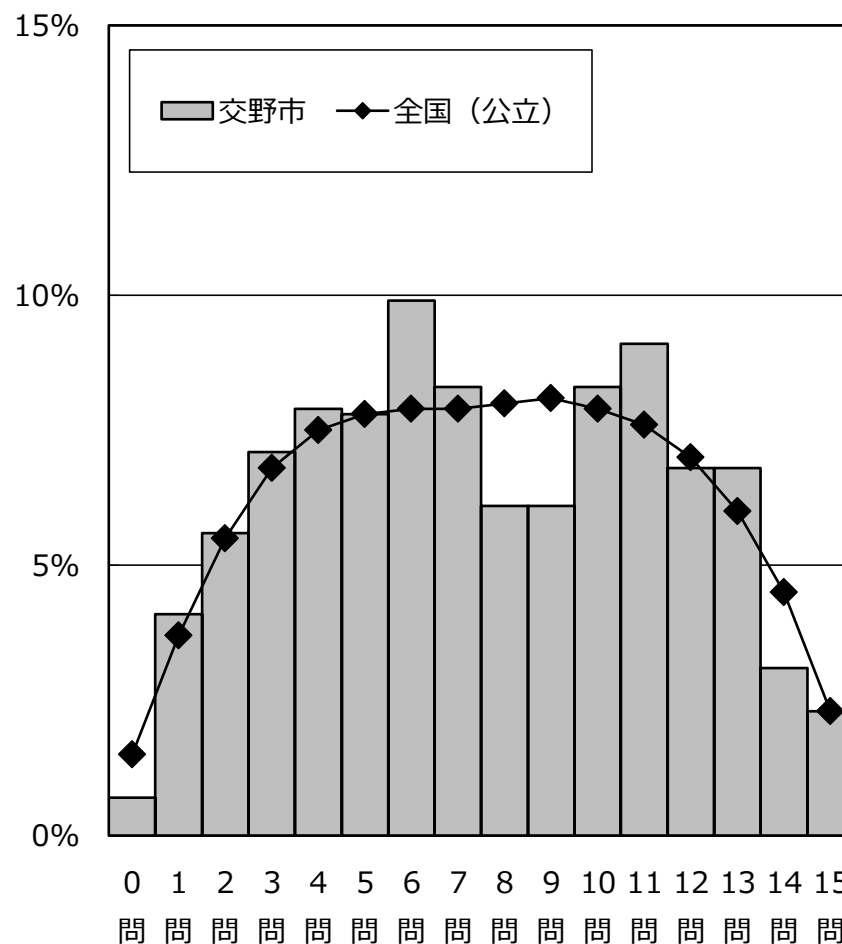


中学校・数学

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			交野市	全国
全体		15	<b>51</b>	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	<b>62.7</b>	63.0
	B 図形	3	<b>31.7</b>	33.2
	C 関数	4	<b>51.2</b>	51.2
	D データの活用	3	<b>48.5</b>	48.5
評価の観点	知識・技能	10	<b>55.1</b>	55.7
	思考・判断・表現	5	<b>41.7</b>	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-
問題形式	選択式	4	<b>42.4</b>	45.3
	短答式	6	<b>63.6</b>	62.6
	記述式	5	<b>41.7</b>	41.6

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



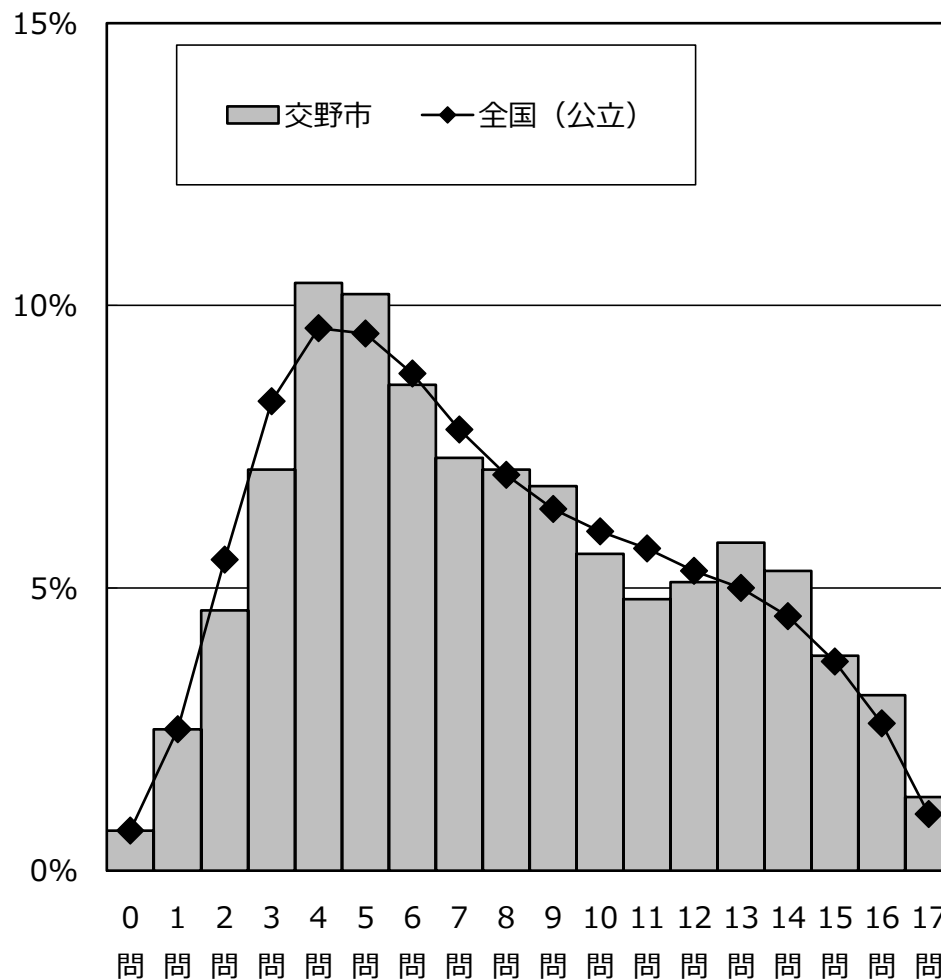


中学校・英語

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			交野市	全国
全体		17	<b>47</b>	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	<b>58.4</b>	58.4
	(2) 読むこと	6	<b>50.6</b>	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0 (4)	- <b>(13.1)</b>	- (14.5)
	(4) 話すこと [発表]	0 (1)	- <b>(4.0)</b>	- (4.2)
	(5) 書くこと	5	<b>28.1</b>	23.4
評価の観点	知識・技能	9	<b>53.3</b>	51.5
	思考・判断・表現	8	<b>39.3</b>	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0	-	-
問題形式	選択式	12	<b>54.5</b>	54.8
	短答式	3	<b>36.6</b>	30.1
	記述式	2	<b>15.3</b>	13.5

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



※英語に関する調査については、調査日に実施された「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。「話すこと」については、学校ごとに文部科学省が指定する日に分散して実施。

小学校・国語

課題の見られた問題

設問 3二

【A 話すこと・聞くこと】【思考・判断・表現】【記述式】



**出題の趣旨** 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

<条件>

- ① 寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを書いている。
- ② 【インタビューの様子】から言葉や文を取り上げて書いている。
- ③ 40字以上、60字以内で書いている。

**(正答例)**

お二人ともわたしたちの安全を守ることにやりがいを感じながら、ボランティアを続けてくださっているということが分かりました。(60字)

**(誤答例)**

お二人とも、見守りボランティアの仕事は、やりがいよりも大変さの方が大きいと感じていることが分かりました。(52字) …… 全体の**9.4%**の児童がこれに類する解答

解答類型	交野市	全国
条件①、②、③を満たしているもの	<b>62.5</b>	70.3
条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	4.0	2.6
条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの ※条件③は不問	2.4	1.4
条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの ※条件③は不問	<b>9.4</b>	8.3
上記以外の解答	4.0	3.3
無解答	<b>17.6</b>	14.3

はじめは、見守りボランティアの仕事は大変なことばかりだと考えていましたが、

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
 ※◆の印から書きましょう。どちらゆうで行を変えないで、続けて書きましょう。

- (条件)
- 寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを書くこと。
  - 【インタビューの様子】の、寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて書くこと。
  - 書き出しの言葉に続けて、四十以上、六十以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

二 谷さんは、寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを【インタビューの様子】の [ ] で話そうとしています。あなたが谷さんなら、どのように話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめる活動が不十分であると考えられる。

小学校・算数

課題の見られた問題

設問 4(3)

【D データの活用】【思考・判断・表現】【記述式】



**出題の趣旨** 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

(3) あいかさんたちは、5年生と6年生に運動カードを配って調べた結果をポスターにのせるために、30分以上の運動をした日数と人数をグラフに表すことにしました。

あいかさんたちは、左の2つのグラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

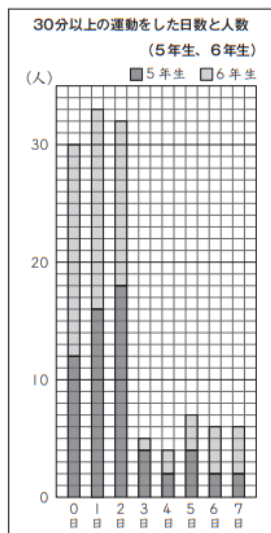
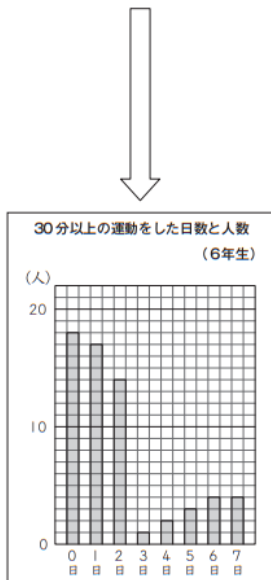
あいか  
自分の学年である6年生の結果を表しました。

はやと  
5年生と6年生を合わせた結果を表しました。

あいか  
どちらのグラフも「0日」、「1日」、「2日」の人数が多いということが同じですね。

はやと  
でも、2つのグラフをくわしく見ると、ちがうところもありますね。

そこで、あいかさんたちは、日数に着目して、2つのグラフのちがうところを、次のようにまとめました。



【「0日」についてまとめたこと】  
「0日」に着目すると、次のようなちがいががあります。  
6年生のグラフでは「0日」の人数が1番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が3番目に多いです。

【「0日」についてまとめたこと】と同じように、「1日」に着目してまとめると、どのようになりますか。  
下の□の中に、「6年生のグラフ」、「5年生と6年生を合わせたグラフ」、「1番目」の3つの言葉と数を使って書きましょう。

【「1日」についてまとめたこと】  
「1日」に着目すると、次のようなちがいががあります。  
※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

- <正答の条件> 次の①、②の全てを書いている。  
① 30分以上の運動をした日数が「1日」の人数について、6年生のグラフでは、2番目に多いことを表す言葉と数  
② 30分以上の運動をした日数が「1日」の人数について、5年生と6年生を合わせたグラフでは、1番目に多いことを表す言葉と数

**（正答例）**  
6年生のグラフでは「1日」の人数が2番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「1日」の人数が1番目に多いです。

解答類型	交野市	全国
条件①、②の全てを書いているもの	48.8	56.2
条件①は書いているもの	5.0	3.5
条件②は書いているもの	6.0	4.9
上記以外の解答	24.2	21.3
無解答	15.9	13.8

目的に応じて、示された複数のグラフから、データの特徴を捉え考察したり、見いだしたことを表現したりする活動が不十分であると考えられる。

中学校・国語

課題の見られた問題

設問 2二

【C 読むこと】【思考・判断・表現】【選択式】

**出題の趣旨** 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる。

問題の概要

二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する。

解答類型	交野市	全国
1と解答しているもの	56.9	63.0
2と解答しているもの	13.9	10.8
3と解答しているもの	9.9	9.2
4と解答しているもの	18.3	16.5
上記以外の解答	0.2	0.0
無解答	0.8	0.4

- ◎ 【1と解答しているもの】は、「表現の効果」という観点で二つの文章を比較し、共通点について考えることができている。【A】と【B】の文章がいずれも、「主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。」ことを捉えることができている。
- △ 【2と解答しているもの】は、【B】の文章が、敬体ではなく常体で書かれていることを捉えることができている。
- △ 【3と解答しているもの】は、【A】と【B】の文章のいずれにも、問いかけの表現は用いられていないことを捉えることができている。
- △ 【4と解答しているもの】は、【A】の文章の結論が、冒頭ではなく文章の最後の一文に示されていることを捉えることができている。

「表現の効果」という観点で二つの文章を比較し、共通点について考える等、観点を明確にして複数の文章を比較しながら読む活動が不十分であると考えられる。

- 1 主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
- 2 敬体でいていねいに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
- 3 問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
- 4 冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

二 【A】と【B】の文章に共通している表現の効果を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

2

中山さんは、本の読み方について考えるために、【A】と【B】の文章を読んでいます。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

わ。

(岸見一郎「本をどう読むか」による。)

(小林秀雄「読書について」による。)



## 中学校・数学

## 課題の見られた問題

## 設問 1

## 【A 数と式】【知識・技能】【選択式】



**出題の趣旨** 自然数の意味を理解しているかどうかをみる。

1 下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

ア -5                      エ 4.7  
イ 0                        オ 9  
ウ 3

解答類型	交野市	全国
ウ、オと解答しているもの	39.5	46.1
ウ又はオのどちらか一方のみを解答しているもの	0.0	0.5
イ、ウ、オと解答しているもの	28.6	30.1
ア、イ、ウ、オと解答しているもの	9.3	5.8
ウ、エ、オと解答しているもの	4.1	2.5
ア、ウ、オと解答しているもの	11.6	8.8
上記以外の解答	6.9	6.2
無解答	0.0	0.1

◎ 【ウ、オと解答しているもの】は、自然数の意味を理解していると考えられる。

△ 【イ、ウ、オと解答しているもの】は、自然数に0が含まれると捉えたと考えられる。

△ 【ア、イ、ウ、オと解答しているもの】は、自然数を整数と混同したと考えられる。

△ 【ウ、エ、オと解答しているもの】は、自然数を正の数と混同したと考えられる。

△ 【ア、ウ、オと解答しているもの】自然数を0以外の整数と混同したと考えられる。

例えば、日本の時刻を基準にして、他の都市の時刻から時差を求め、それを正の数や負の数を用いて表現する活動から、自然数や整数の必要性や意味を具体的な場面に結び付けて考え、数の集合を捉え直す場面を設定する等、様々な事象を数学的に考察し表現する活動が不十分であると考えられる。

## 中学校・英語

## 課題の見られた問題

## 設問 7 (1)

## 【(2) 読むこと】【知識・技能】【選択式】



## 出題の趣旨 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる。

- 7 次の英文は、しおりさんが英語の授業で「町の図書館」について書いたものです。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Libraries today are more creative than in the past. The library in our town is more creative, too. We can do a lot of things there. We not only read books and watch DVDs at the library, but also enjoy events like book talks, puppet shows, and workshops about making picture books.

There are many kinds of spaces, too. ( ), people can read books on sofas, on *tatami* mats or in the library cafeteria. They can relax and read books anywhere. They can use small rooms for studying, meeting, or working.

Our creative library can connect people. One of my friends likes making picture books now after he joined a workshop at the library. He sometimes asks the library staff questions about making picture books by email even now. Also, while some kids are reading together on the *tatami* mats, their parents can become friends with each other.

I hope all of you visit our creative library in the near future.

- (注) creative: 創造的な  
not only ~, but also ...: ~だけでなく、...も  
puppet: 人形      workshop: ワークショップ  
connect: ~をつなぐ      while: ~する間

- (1) 英文中の ( ) に当てはまる語 (句) として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 Like this                      3 Then  
2 For example                4 Second

## 問題の概要

図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する

解答類型	交野市	全国
1と解答しているもの	<b>18.5</b>	15.1
2と解答しているもの	<b>54.6</b>	59.8
3と解答しているもの	16.0	16.8
4と解答しているもの	10.2	8.0
上記以外の解答	0.2	0.0
無解答	0.5	0.3

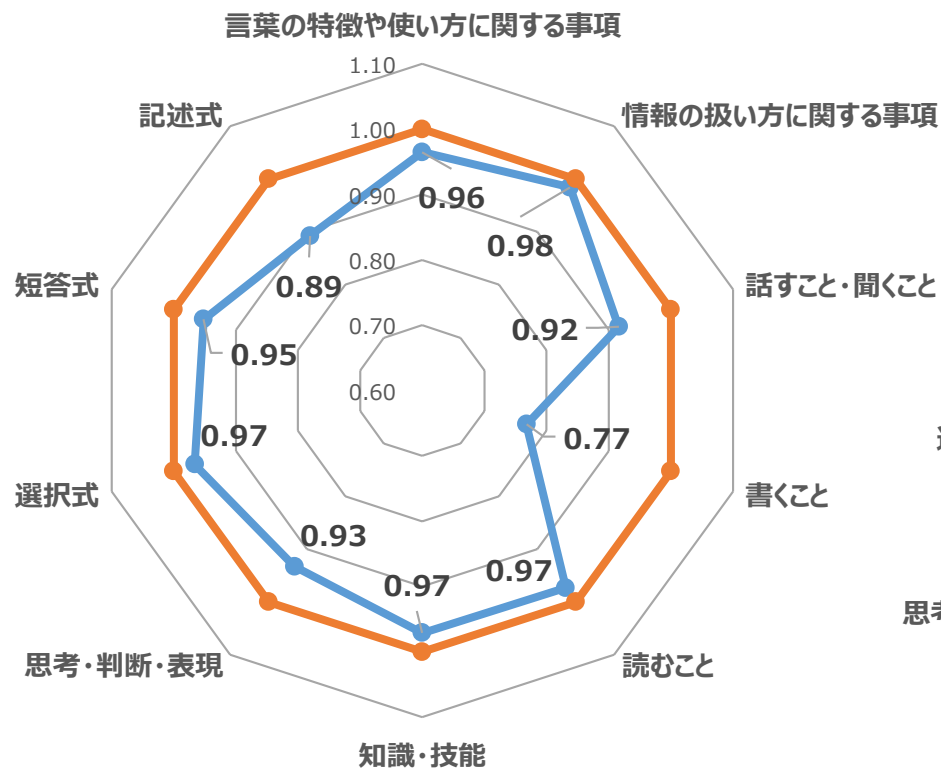
△【1、3、4と解答しているもの】は、空所の後に位置する people can read books on sofas, on *tatami* mats or in the library cafeteria. という英文が、空所の前に位置する There are many kinds of spaces, too. という英文の具体的な情報を示しているという文と文との関係を読み取ることができていない。

物語や説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉える活動が不十分であると考えられる。

学習指導要領の内容及び問題形式の状況

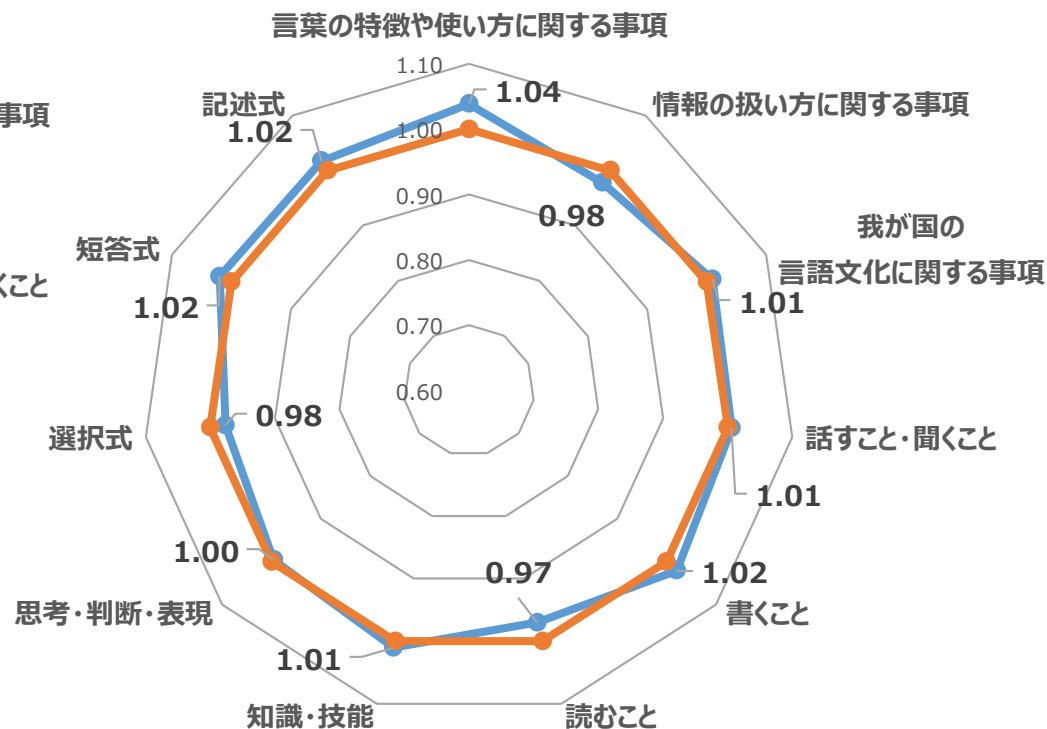
小学校 国語

●交野市 ●全国（全国平均を1とする）



中学校 国語

●交野市 ●全国（全国平均を1とする）

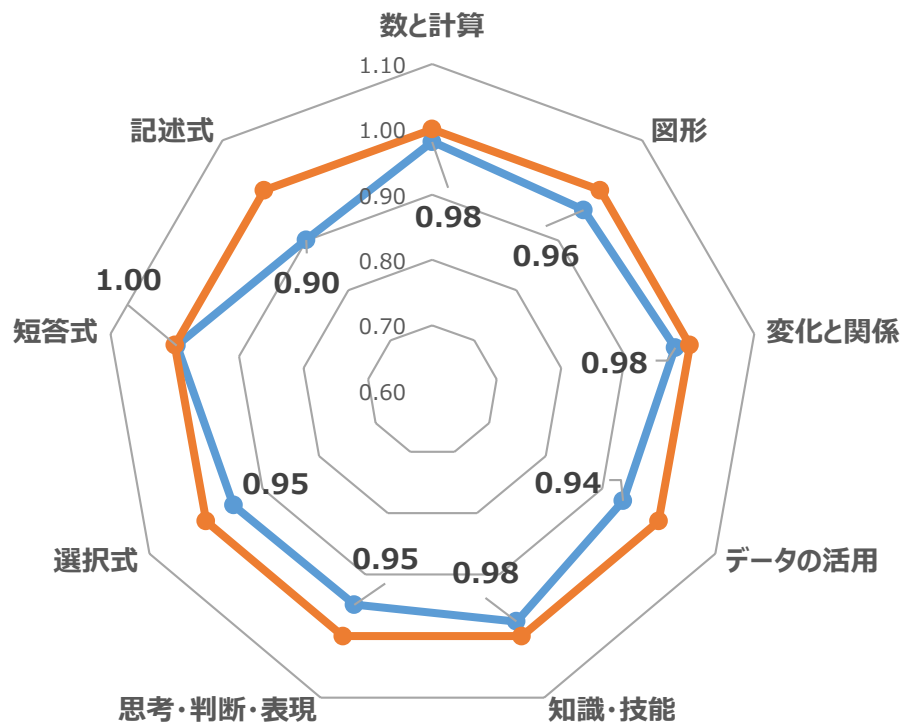


- ・小学校では、全ての内容及び問題形式において、全国平均を下回る結果となった。
- ・中学校では、全国平均とほぼ同様の結果となった。

学習指導要領の領域及び問題形式の状況

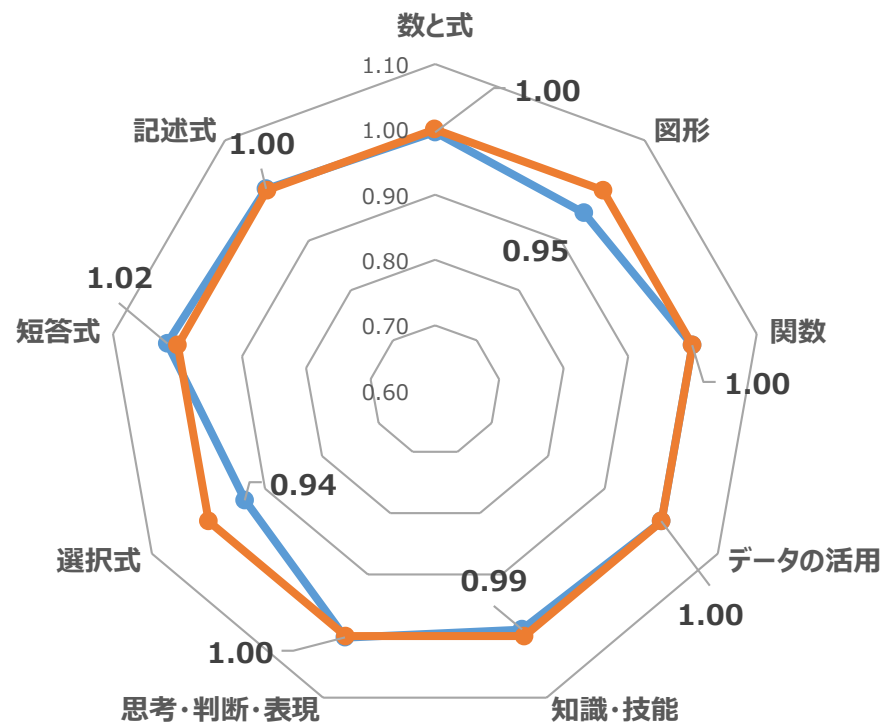
小学校 算数

● 交野市 ● 全国（全国平均を1とする）



中学校 数学

● 交野市 ● 全国（全国平均を1とする）



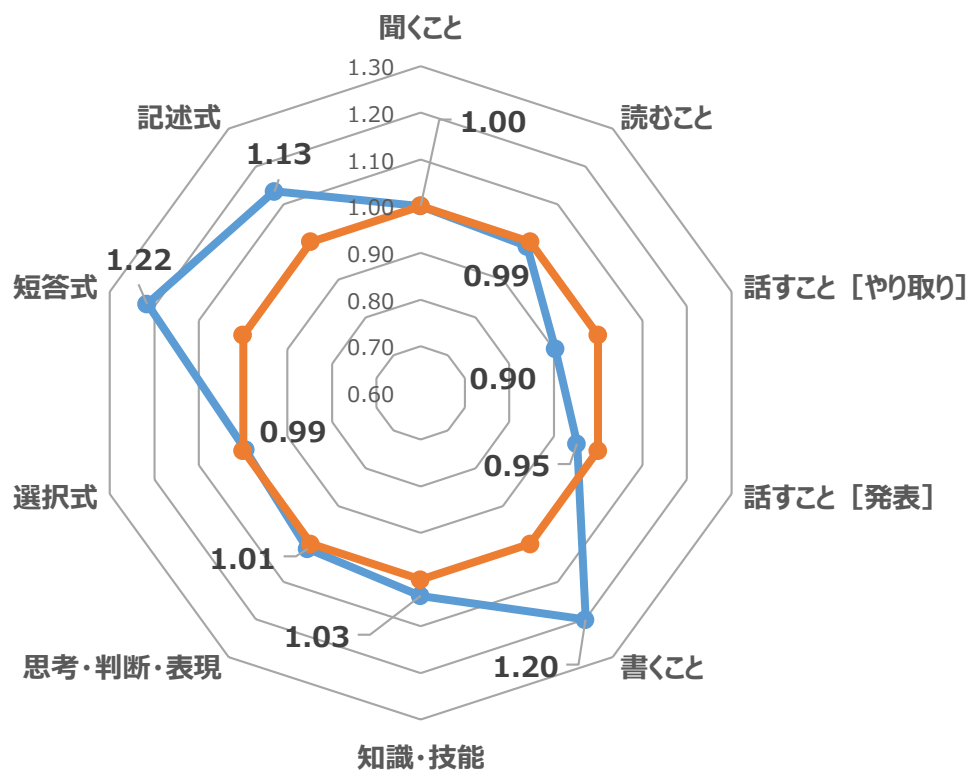
- ・小学校では「短答式」を除く全ての項目で全国平均を下回った。
- ・中学校では「図形」及び「選択式」を除く全ての項目で全国平均とほぼ同様であった。



学習指導要領の領域及び問題形式の状況

中学校 英語

● 交野市 ● 全国（全国平均を1とする）

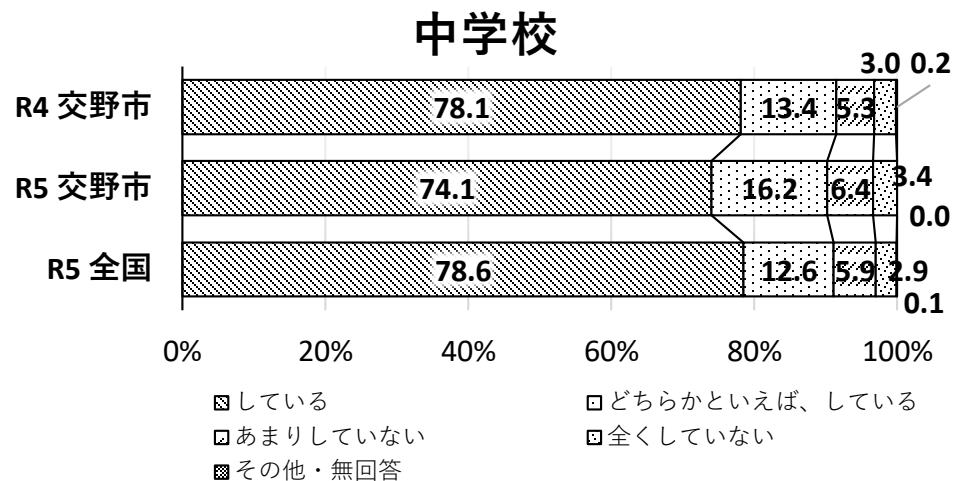
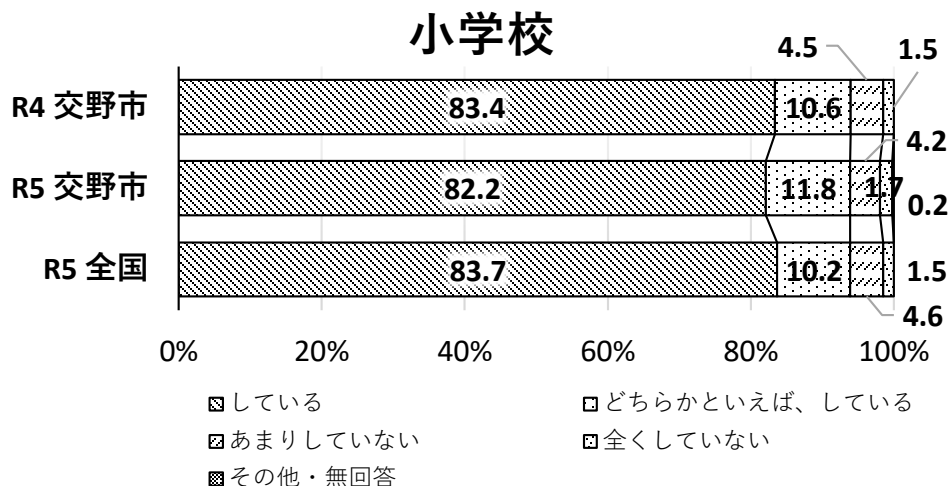


「話すこと」([やり取り]・[発表])の領域で全国平均を下回ったものの、複数の項目で全国平均を大きく上回った。

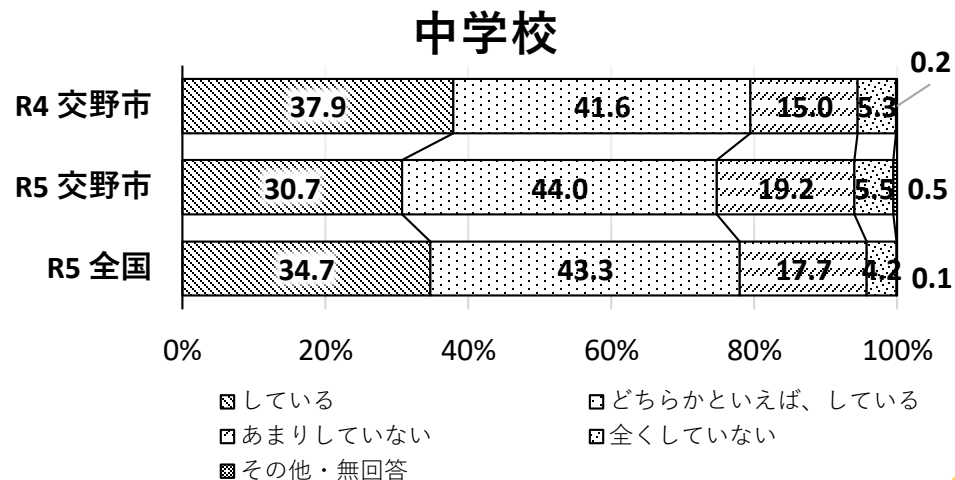
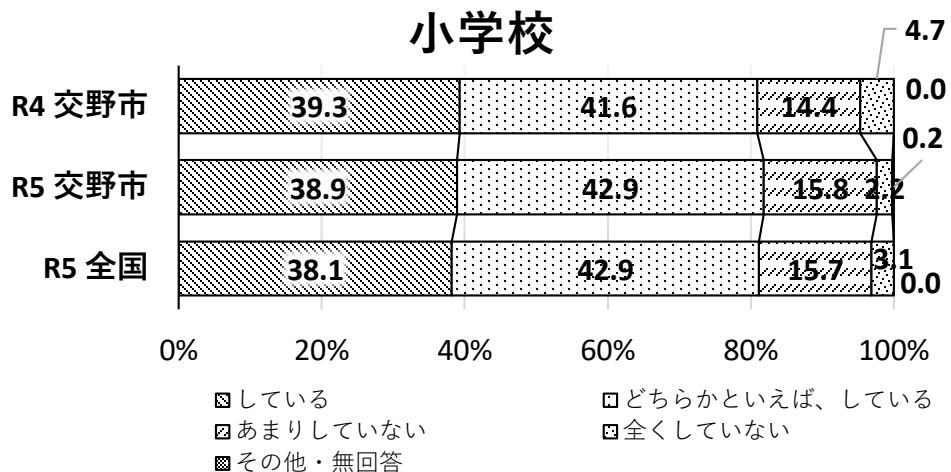
児童生徒質問紙調査結果

基本的な生活習慣

朝食を毎日食べている。



毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

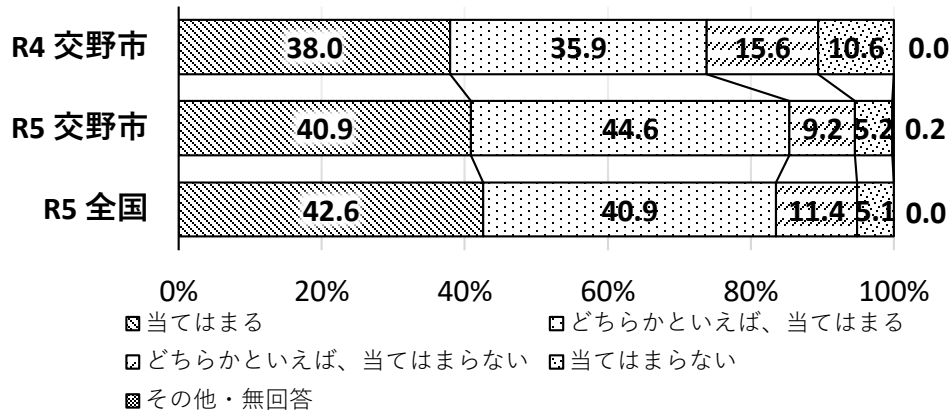


児童生徒質問紙調査結果

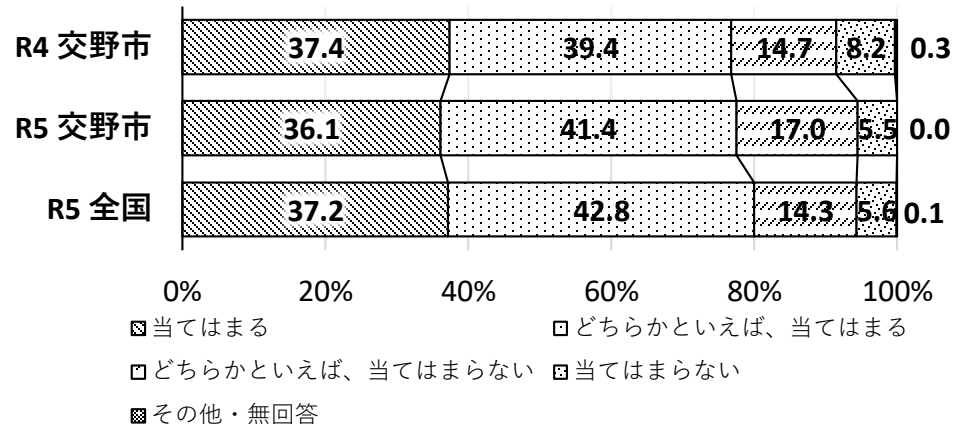
自己肯定感

自分には、よいところがあると思いますか。

小学校

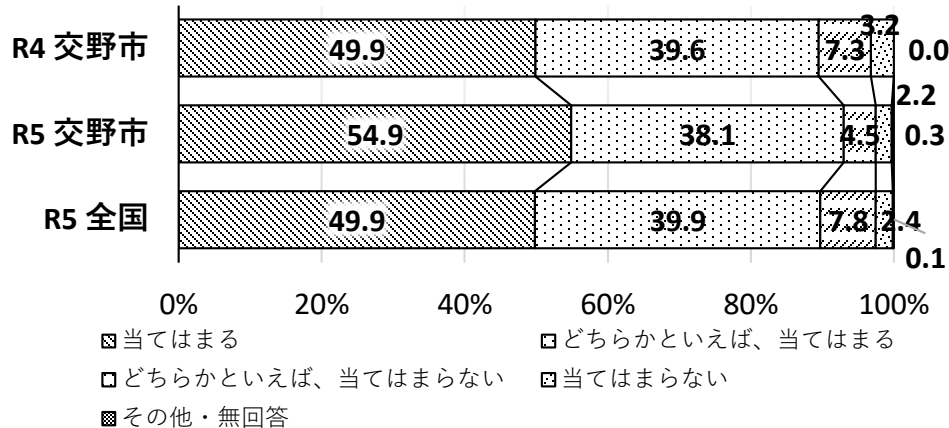


中学校

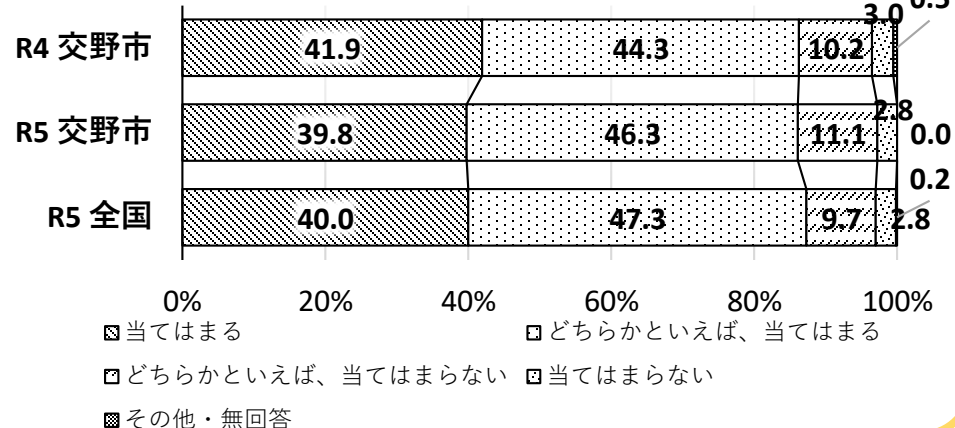


先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

小学校



中学校

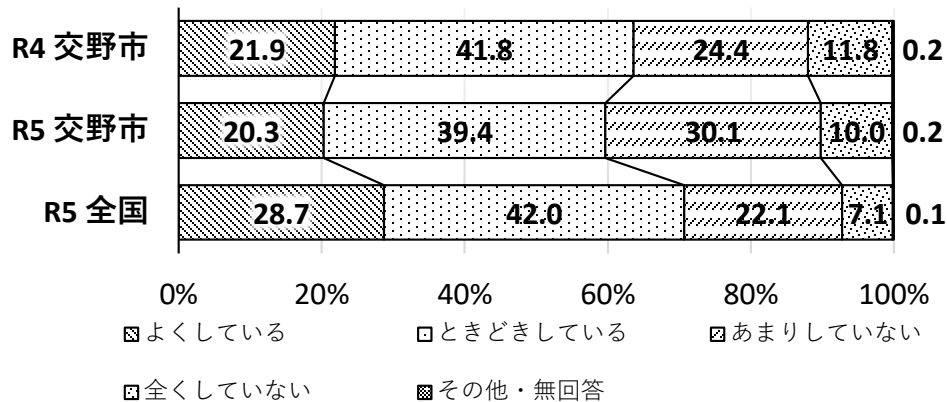


児童生徒質問紙調査結果

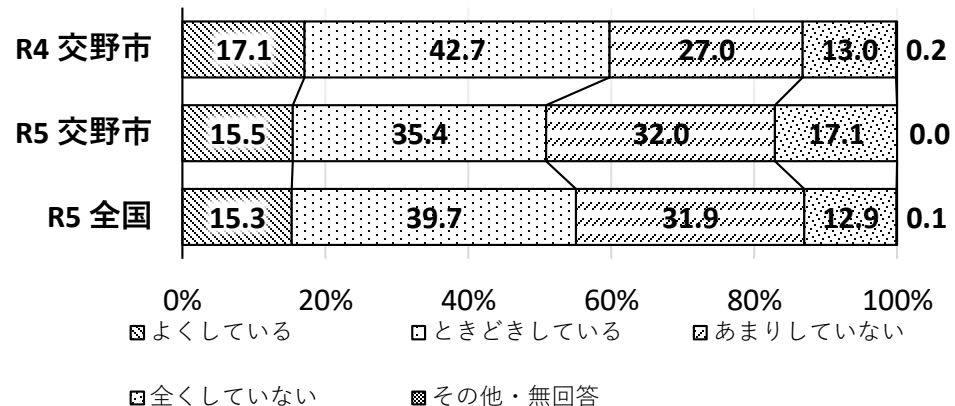
学習習慣

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）。

小学校

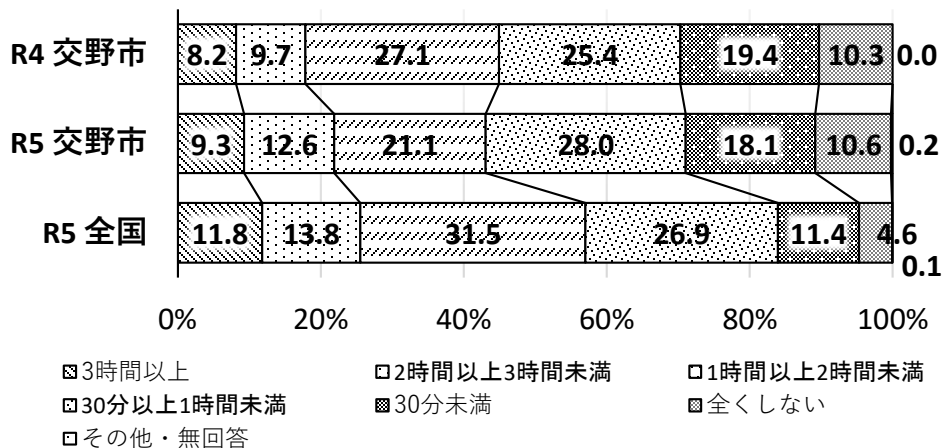


中学校

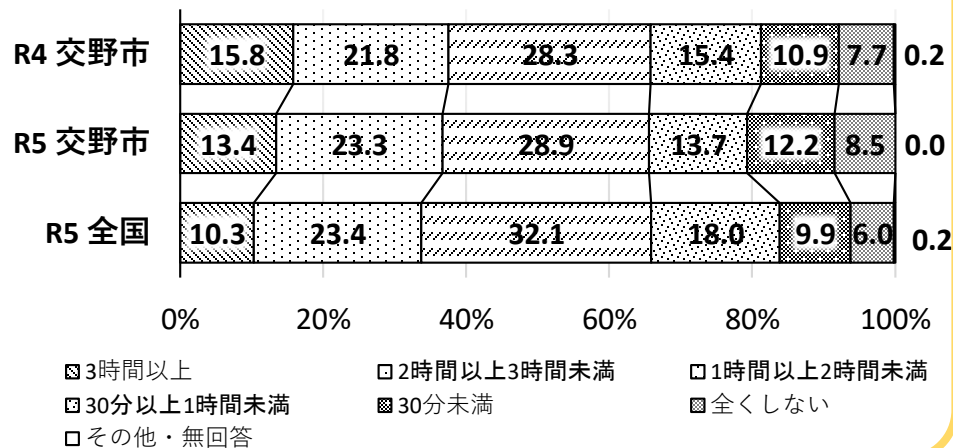


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）。

小学校



中学校

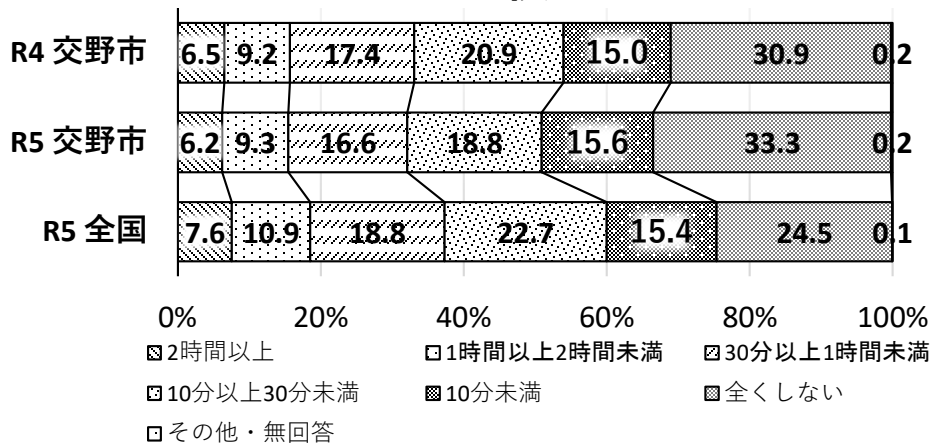


児童生徒質問紙調査結果

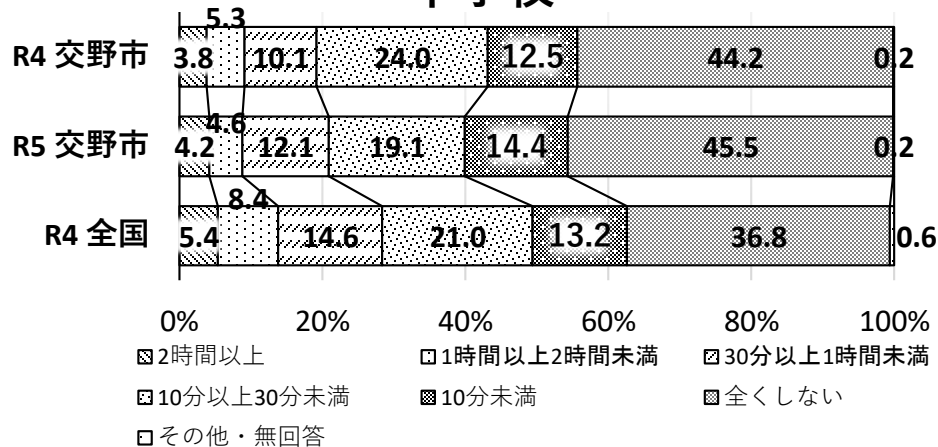
読書の状況

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）。

小学校

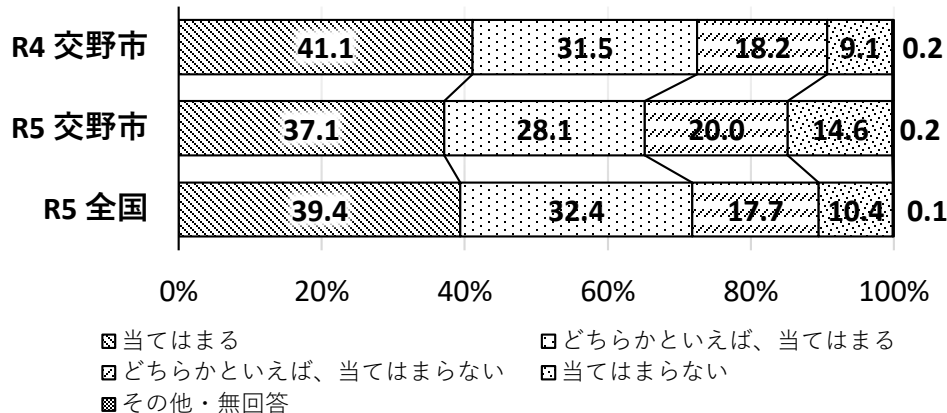


中学校

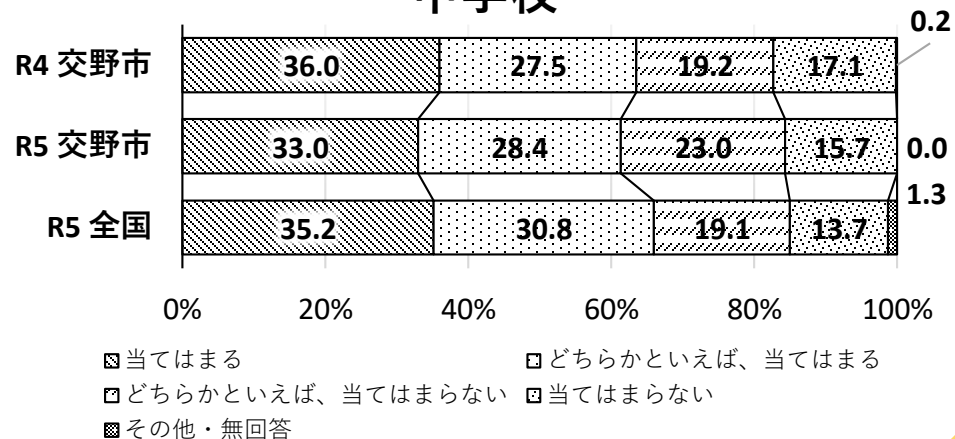


読書は好きですか。

小学校



中学校

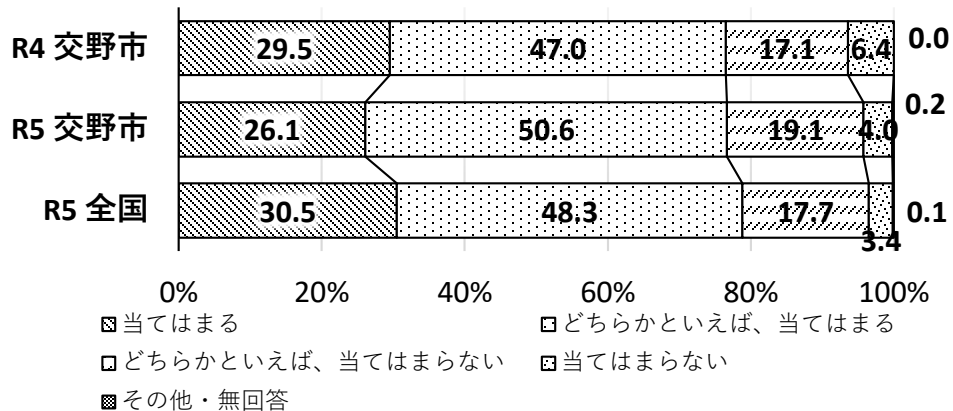


児童生徒質問紙調査結果

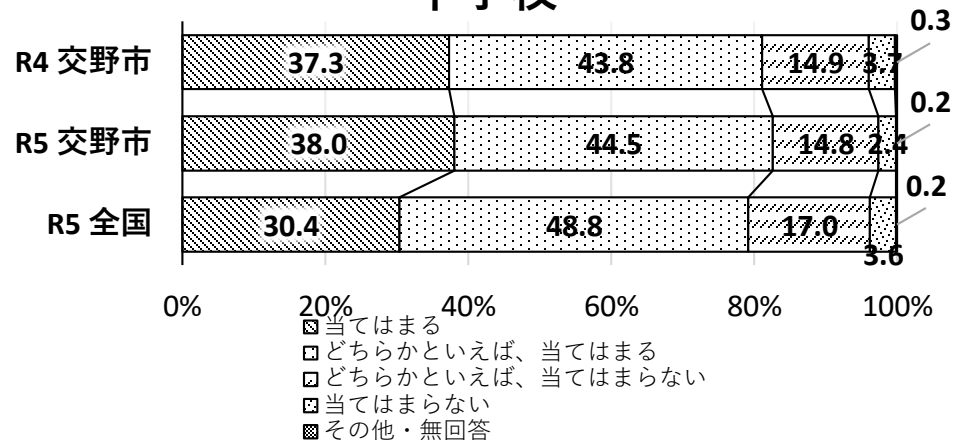
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組み状況①

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

小学校

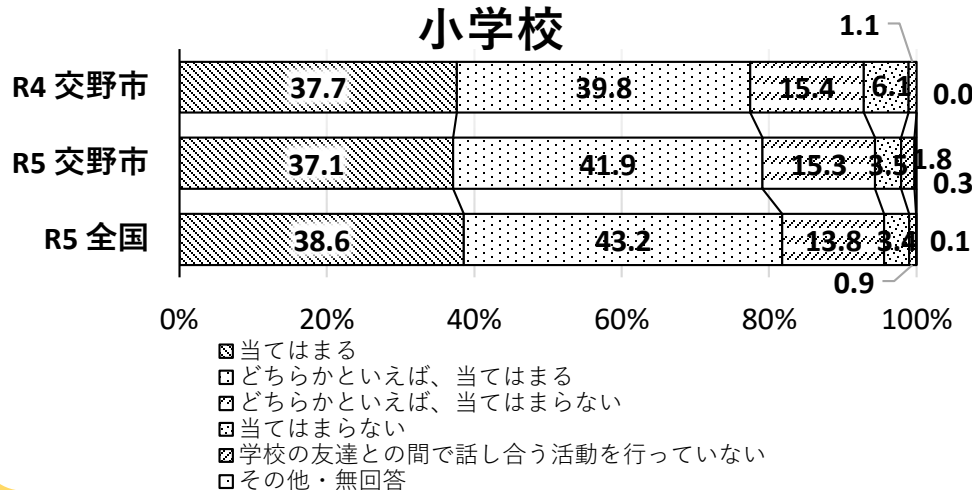


中学校

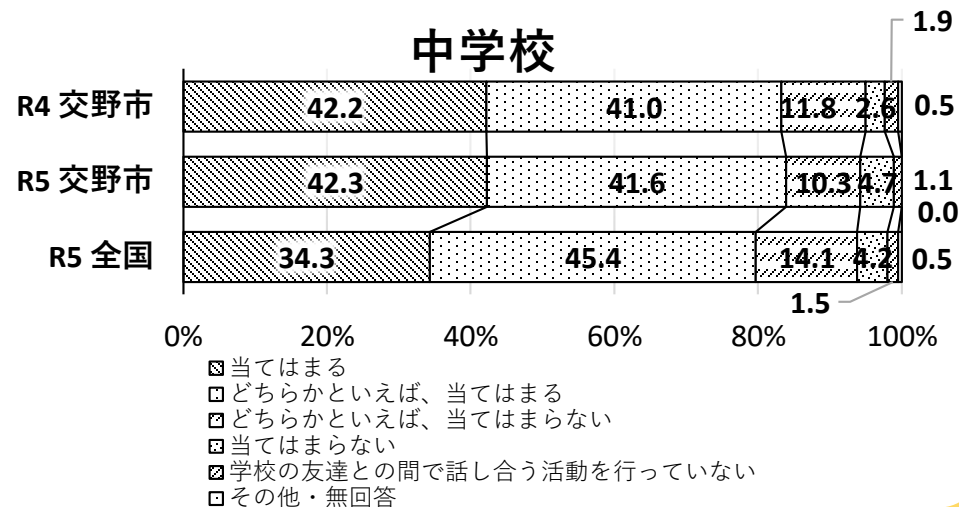


学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

小学校



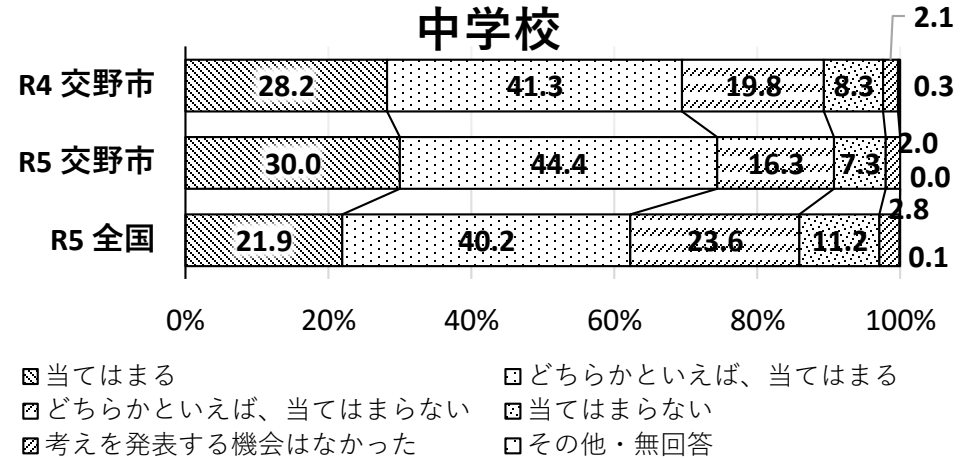
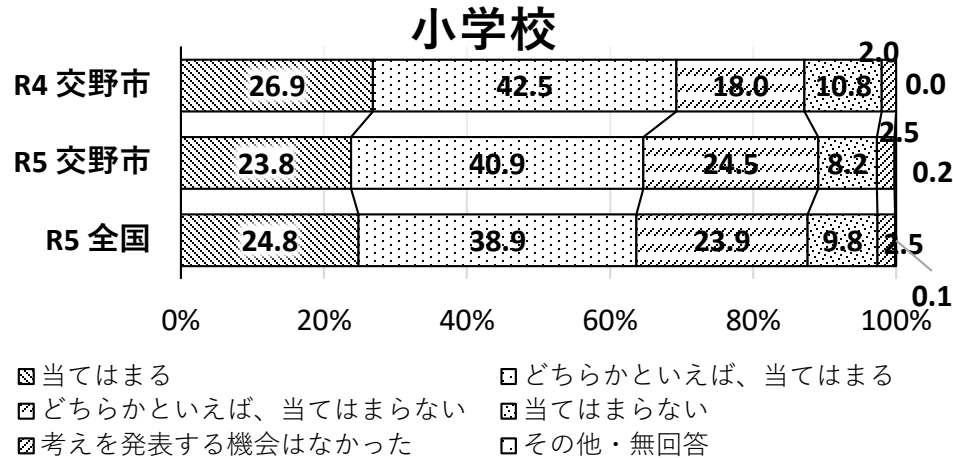
中学校



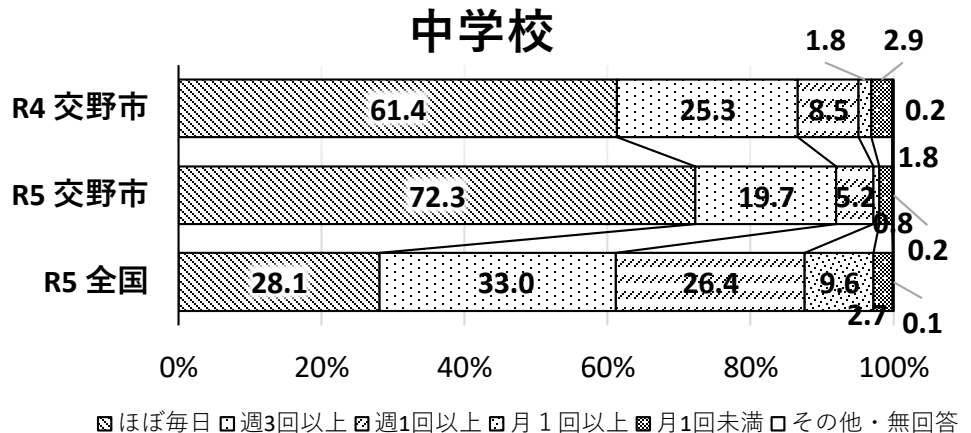
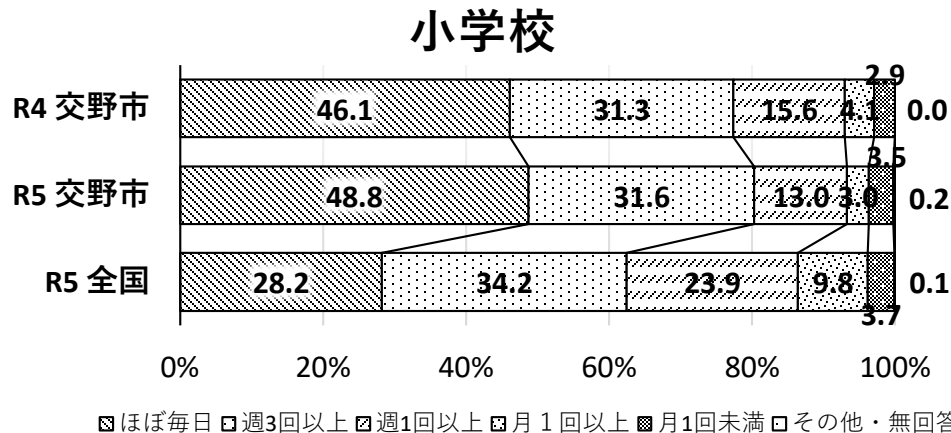
児童生徒質問紙調査結果

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組み状況②

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



## 取組みの成果と課題解決に向けて

### 取組みの成果と課題

- 教科に関する調査について、小・中学校ともに全教科で概ね全国平均正答率と同様の傾向になっており、一定の学力の定着が見られる。
- 「自分には良いところがある」の肯定的回答の割合が増加している。
- 授業でのICTの活用状況は全国を大きく上回っており、授業改善が着実に進展している。

- ▲ 小学校国語の「書くこと」領域や「記述式」で正答率が低い。
- ▲ 「読書を全くしない」児童生徒の割合が全国と比べて高く、「読書を好き」と肯定的に回答した児童生徒の割合がやや減少している。
- ▲ 自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合が全国に比べて低く、家庭での学習習慣が低下している。

### 改善のための 方策



## 1. 児童・生徒の自ら学ぶ意欲と態度の育成

- 本市の授業スタイルである「かたのスタディ」の取組みを中心としながら、課題で見られた判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する等の力を身につけるために適した学習活動を全教科で設定し、言語活用力の定着を図ります。
- 全校に配置した「学びあいサポーター」を活用し、学校図書館の機能の更なる充実を図り、読書の楽しさや本のすばらしさ、本やタブレット等を適切に選んで調べ学ぶことの大切さ等について伝え、学校図書館を活用した授業づくりや児童生徒の読書活動の充実を図ります。また、全校の学校図書館に複数の新聞を配備し、学習資料の一つとして活用を進めることで、児童・生徒に新しい学びとの出会いの場を提供します。
- グローバル・コミュニケーション能力向上の取組みにより培った英語力について、英検IBAを用いて生徒自身が個々の学習状況を客観的に捉えるとともに、各中学校において学習の習熟過程等を把握・検証し、学習指導の工夫・改善を図ります。
- 児童・生徒の学びの成果を発表する場（プレゼンコンテスト等）を開催し、自ら学ぶ意欲や互いを高め合う態度を醸成します。
- 地域の企業と連携して、社会の多様な課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、大阪大学での授業体験やマイクラフトを活用したプロジェクトを進めたりすることで、生涯にわたって課題解決に主体的に取り組む態度を育成します。

## 2. 社会の変化に対応した学習指導方法の充実

- 本市の課題である、自分で考え、自分から取り組む子どもたちを育成するため、探究型授業に先進的に取り組んでいる他府県への教員視察を実施し、教員の授業力向上を図ります。
- 市教職員専用の学力向上ポータルサイトを活用し、本市の学力向上モデル校を中心に効果のあった先進的な取組み等を発信し、全教職員で共有します。
- ICTを効果的に活用した授業を推進するとともに、教職員同士が実践事例を交流する場を開催し、ICT利活用のより一層の普及を図ります。
- 学園（中学校区）の目標とするめざす子ども像や現状及び課題等を家庭や地域住民と共有し、課題解決に向けて取り組む体制づくりを支援をします。（令和7年4月 市内全ての中学校区に「コミュニティ・スクール」を導入）

